

## 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画（シラバス）

### 講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	後期		
学 科	理学療法科	学 年	1学年		
科目名	医学英語	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	20
講師名	小宮山与一、津谷宗達、高田拓明	総時間数	30	単位数	2
講義目標	<b>一般目標</b>				
	臨床現場で使用される医療に関する英語（英単語）、略語を理解して、カルテ等の資料を読み取ることができ、対象者の情報を記すことができる。				
	<b>到達目標</b>				
	1. 臨床で用いられる英単語や略語を理解し、用いることができる。 2. 医学英語で用いられる接頭語や解剖・運動学用語を理解できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	面、肢位、運動方向① に関する医学英語について	11	理学療法に関する用語 略語
2	面、肢位、運動方向② に関する医学英語について	12	画像所見に関する医学英語 津谷 中枢神経系 担当：津谷
3	人体各部の医学英語名称（1） 骨・関節①	13	画像所見に関する医学英語 津谷 中枢神経系 担当：津谷
4	人体各部の医学英語名称（2） 骨・関節②	14	画像所見に関する医学英語 小宮山 運動器系
5	人体各部の医学英語名称（3） 骨・関節③	15	画像所見に関する医学英語 小宮山 運動器系
6	人体各部の医学英語名称（4） 筋 上肢①	16	医学英語論文の読解①高田 担当：高田
7	人体各部の医学英語名称（5） 筋 上肢②	17	医学英語論文の読解②高田 担当：高田
8	人体各部の医学英語名称（6） 筋 下肢①	18	医学英語論文の読解③高田 担当：高田
9	人体各部の医学英語名称（7） 筋 下肢②	19	医学英語論文の読解④高田 担当：高田
10	人体各部の医学英語名称（8） 筋 頸部/体幹①	20	医学英語論文の読解⑤（発表） 担当：高田

**講義方法**

各自で辞書、教科書等を用い、授業で扱う用語について調べてください。

**成績評価方法**

期末試験75%      発表25%

**参考書**

コ・メディカル版    ステッドマン医学辞典（英和・和英）

**予習復習のアドバイス**

1年前期・後期の履修科目に関する用語の理解が前提となります。

他科目での用語の復習が必要になりますので事前に確認しておくこと。

## 講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	通年（前期）		
学 科	理学療法科	学 年	1学年		
科目名	運動学	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	40
講師名	和地辰紀、佐藤美加、三浦信明	総時間数	60	単位数	4
講義目標	<b>一般目標</b>				
	運動や障害を評価するために必要な捉え方・考え方の基礎となる運動学的知識を習得する。				
	<b>到達目標</b>				
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 運動学的用語を理解し、正しく用いることができる。</li> <li>2. 身体の基本的な構造や分類を理解し、正しく用いることができる。</li> <li>3. 神経筋骨格系の構造や分類を理解し、正しく用いることができる。</li> <li>4. 力学原理に基づく運動の記述と解釈ができる。</li> </ol>				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	運動学の定義・表現の基本	11	顔面
2	運動学の定義・表現の基本	12	呼吸
3	神経筋骨格系の機能（骨・関節）	13	呼吸
4	神経筋骨格系の機能（骨・関節）	14	脊柱
5	神経筋骨格系の機能（筋）	15	脊柱
6	神経筋骨格系の機能（筋）	16	脊柱
7	神経筋骨格系の機能（神経）	17	脊柱
8	神経筋骨格系の機能（腱・靭帯）	18	脊柱
9	運動の中樞神経機構、姿勢	19	運動発達
10	運動学習、生体力学	20	運動発達

回数	講義内容	回数	講義内容
21	股関節	31	肘関節、手部
22	股関節	32	肘関節、手部
23	膝関節	33	歩行
24	膝関節	34	歩行
25	足関節	35	歩行
26	足関節	36	歩行
27	肩関節	37	異常歩行
28	肩関節	38	動作演習
29	肩関節	39	動作演習
30	肘関節、手部	40	動作演習

### 講義方法

教科書、スライド、配付資料を使用します。また、人体模型・標本や実際の身体運動と照らし合わせながら講義を行います。

### 講義で使用する機器・教材

教科書、ホワイトボード、スライド、人体模型・標本を使用。

### 履修上の注意事項

理学療法の基礎となる重要な科目です。

覚えなければいけないキーワードが毎回多く出ます。

解剖学・生理学の知識と結びつけながら学ぶ必要があります。

### 成績評価方法

担当教員毎に筆記試験を実施し、各教員の試験において6割に満たない場合は、それぞれ再試験を実施します。それらの結果を合算し総合評定を行います（各教員持ち点25点）。

### 教科書

中村隆一 斎藤宏 著 基礎運動学 第6版 補訂 医歯薬出版

### 参考書

適宜、授業で紹介します。

### 予習復習のアドバイス

わからないことは、すぐに調べる、又は教員に聞くこと。

常に疑問を持ち臨むこと。

## 講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	前期		
学 科	理学療法科	学 年	2学年		
科目名	運動学実習	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	30
講師名	和地 辰紀、高田 拓明	総時間数	45	単位数	1
講義目標	<b>一般目標</b>				
	運動学で修得した知識をもとに、体表からの視診・触診を通じて、正常な関節構成体の構造と機能を確認し、さまざまな身体運動・動作を運動学的に分析することができる。				
	<b>到達目標</b>				
	①実習を通じて、人の運動・動作の特徴とそれに伴う諸現象を理解することができる。 ②運動と動作に関して、観察・測定・分析の初歩的手段を体験することができる。 ③観察・測定・分析の結果をレポートとしてまとめることができる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	概要説明	16	演習課題⑤-1（寝返り:概念）
2	演習課題②-1(姿勢分析)	17	演習課題⑤- 2（寝返り:概念）
3	演習課題②-2(姿勢分析)	18	演習課題⑤- 3（寝返り分析：正常）
4	演習課題②-3(姿勢分析)	19	演習課題⑤- 4（寝返り分析：正常）
5	演習課題②-4(姿勢分析)	20	演習課題⑥-1（起き上がり:概念）
6	演習課題③-1(動作分析：立ち上がり)	21	演習課題⑥- 2（起き上がり分析：正常）
7	演習課題③-2(動作分析:立ち上がり)	22	演習課題⑥- 3（起き上がり分析：正常）
8	演習課題③-3(動作分析:立ち上がり)	23	演習課題⑥- 4（起き上がり分析：正常）
9	演習課題③-4(動作分析:立ち上がり)	24	演習課題⑥- 5（起き上がり分析：正常）
10	演習課題④-1(歩行:概念)	25	超音波画像診断装置を用いた運動学的分析①
11	演習課題④-2(歩行:概念)	26	超音波画像診断装置を用いた運動学的分析②
12	演習課題④-3（歩行分析:正常）	27	超音波画像診断装置を用いた運動学的分析③
13	演習課題④-4（歩行分析:正常）	28	3次元動作解析①
14	演習課題④-5（歩行分析:正常）	29	3次元動作解析②
15	演習課題④- 6（歩行分析:正常）	30	歩行分析（機器使用）

**講義方法**

授業中に実習課題を提示し、その課題について個々人もしくはグループで解決していく。その実習で得られた結果をレポートにまとめ、作成・提出・発表をする。

**講義で使用する機器・教材**

ノートパソコン, スライド, 配付資料等

**履修上の注意事項**

運動学・解剖学の基礎知識が必要となります。

レポート課題がメインとなりますので提出期限を厳守すること。

**成績評価方法**

学期末考査： 50点

レポート： 姿勢分析・立ち上がり分析・歩行分析・寝返り分析・起き上がり分析 計5回×10点=50点

レポート提出遅れ(減点5点) 内容不足(減点)

**教科書**

PT・OTのための運動学テキスト(基礎・実習・臨床) 金原出版株式会社

**予習復習のアドバイス**

わからないことは、すぐに調べる、又は教員に聞くこと。

常に疑問を持ち臨むこと。

個々人で調べるが多くなりますので、時間に余裕を持って調べること。

## 講義要項（シラバス）

<b>年 度</b>	2019年度	<b>時 期</b>	通年		
<b>学 科</b>	理学療法科	<b>学 年</b>	1学年		
<b>科目名</b>	理学療法概論	<b>講義時間</b>	時間割参照		
		<b>講義曜日</b>	時間割参照	<b>講義回数</b>	20
<b>講師名</b>	津谷 宗達      松田 千明	<b>総時間数</b>	30	<b>単位数</b>	2
<b>講義目標</b>	<b>一般目標</b>				
	理学療法及び理学療法士の概略を理解する。				
	<b>到達目標</b>				
理学療法士を目指す学生として、将来の理学療法士像をイメージできるようになるとともに、この3年間を具体的にどのように過ごす必要があるのかをイメージできるようになる。					
<b>回数</b>	<b>講義内容</b>		<b>回数</b>	<b>講義内容</b>	
1	理学療法って何だろう？(第1章) Key word：概要、定義、歴史、学問的範囲、		11	理学療法士の職能（第7章） Key word：日本理学療法士協会、日本理学療	
2	役割、法的義務、リハビリテーションとの関連、障害モデル		12	法士連盟、生涯学習、キャリアパス、キャリアデザイン	
3	理学療法士の使命		13	理学療法（士）教育とは？（第8章）	
4	および倫理対象・領域（第3章）		14	Key word：養成教育の歴史、国家試験の出題基準、CCS、OSCE	
5	Key word：生命倫理、臨床倫理、各病期におけるPTの意義・目的、対象者の基本的権利、		15	理学療法研究（第10章） Key：研究の必要性・意義、PTの質	
6	説明と同意、自己決定権、個人情報		16	理学療法士に関連する法律（第2章） Key word：PT及びOT法	
7	理学療法の実践（第5章）		17	理学療法士に必要な管理、運営（第11章）	
8	Key word：理学療法の過程、クリニカルパス、診療ガイドライン、エビデンスレベル		18	Key word：医療事故、院内感染、コンプライアンス、法令違反、ハラスメント、医療広告	
9	理学療法士の活躍の場（第6章）		19	ガイドライン、コンフリクトマネジメント	
10	Key word：医療、保健、福祉、教育、研究、スポーツ		20	総括	
<b>講義方法</b>					
講義、調べ学習、グループワーク、発表					
<b>講義で使用する機器・教材</b>					
使用する場合は、適宜事前に連絡します。					
<b>成績評価方法</b>					
レポート、期末試験、発表を総合的に勘案し評価します。					
評価方法：グループワーク課題（10点）、発表課題（20点）、期末試験（70点）を合算					
<b>教科書</b>					
理学療法概論テキスト 改訂第3版					
<b>予習復習のアドバイス</b>					
主に教科書を使用しますが、必要に応じて資料を配布する予定です。全て期末試験範囲の資料となりますので、復習する際に十分に活用すること。					

## 講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	後期		
学 科	理学療法科	学 年	1学年		
科目名	基礎理学療法学	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	20
講師名	津谷 宗達、小宮 与一	総時間数	30	単位数	2
講義目標	<b>一般目標</b>				
	・ 理学療法評価・治療を行うために必要な基礎科学(解剖学/生理学/運動学)や病態について理解すること。				
	<b>到達目標</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 理学療法評価・治療に必要な基礎科学や病態のメカニズムを理解し、説明できる。</li> <li>・ 調べた病態や機能障害について、見学実習で患者さんを通し、実際に起こっている現象を確認し、具体性を持って説明できる。</li> <li>・ 3段階の段階的目標を設定する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>1、実習前、病態や機能障害についてグループで調べ学習を実施できる。</li> <li>2、実習中、調べた病態や機能障害について患者さんを通して確認できる。</li> <li>3、実習後、病態や機能障害について教科書的な理屈と臨床像を報告書にまとめ、スライドで発表できる。</li> </ul> </li> </ul>					

回数	講義内容	回数	講義内容
1	概要説明	11	課題作成（9）
2	テーマの選定	12	課題作成（10）
3	課題作成(1)	13	プレゼンテーション準備(1)
4	課題作成(2)	14	プレゼンテーション準備(2)
5	課題作成(3)	15	プレゼンテーション（1）
6	課題作成(4)	16	プレゼンテーション（2）
7	課題作成(5)	17	プレゼンテーション（3）
8	課題作成(6)	18	プレゼンテーション（4）
9	課題作成(7)	19	プレゼンテーション（5）
10	課題作成(8)	20	プレゼンテーション（6）



<b>講義方法</b>
ペア学習、発表 など
<b>講義で使用する機器・教材</b>
必要に応じて事前に指示する。
<b>履修上の注意事項</b>
発表レジュメの作成に向けて、主体的な取り組みや担当教員との報告、連絡、相談が必須になります。また、提出物の〆切を厳守すること。
<b>成績評価方法</b>
授業態度、発表態度・内容、小テスト、出席状況を考慮して評価する。
<b>参考書</b>
理学療法ハンドブック 1～4 巻
<b>予習復習のアドバイス</b>
主体的に行動し、随時教員に報告・連絡・相談を行い進めいていくこと。

## 講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	通年		
学 科	理学療法科	学 年	1学年		
科目名	基礎理学療法実習Ⅰ	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	30
講師名	加藤栄美子 松田千明	総時間数	45	単位数	1
講義目標	<b>一般目標</b>				
	【前期】見学実習において理学療法士の仕事を知り得るための基礎的な知識や社会的なルール・マナーを理解し習得する。				
	<b>到達目標</b>				
	<p>【前期】医療職としての倫理観を身につける。 理学療法士が使用する基本的な器具の名称や使用方法を理解する。</p> <p>【後期】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 身体運動を表現し分析するために必要な力学的知識，筋活動，姿勢を理解できる。</li> <li>2. 正常歩行の観察と分析方法について学習し，さまざまな疾患の特徴的な歩行障害についての分析に役立たせることができる。</li> <li>3. 運動遂行上，運動学習がどのような働きをしているのかを理解できる。</li> </ol>				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	学生としての態度とマナー、組織の一員としての義務	11	生体の形と動きを表現する① 骨性指標の触診、関節運動の復習
2	コミュニケーション演習①	12	生体の形と動きを表現する② 対称性の観察、姿勢の観察
3	コミュニケーション演習②	13	生体の形と動きを表現する③ 姿勢の変化とバランス（1）
4	血圧測定について、リスク管理について（感染症対策、個人情報保護）①	14	生体の形と動きを表現する④ 姿勢の変化とバランス（2）
5	血圧測定について、リスク管理について（感染症対策、個人情報保護）②	15	バランス検査 姿勢反射①
6	杖の種類、使用法①	16	バランス検査 姿勢反射②
7	杖の種類、使用法②	17	歩行① 正常歩行の観察、歩行速度について
8	車椅子の名称、使用法	18	歩行② 歩行速度、歩行率と歩行比
9	車椅子の名称、使用法	19	運動と動作の分析① 臥位～座位
10	まとめ	20	運動と動作の分析② 座位～立位

回数	講義内容	回数	講義内容
21	創傷治癒のメカニズム①	26	感覚検査
22	創傷治癒のメカニズム② (痛みのメカニズム含)	27	疼痛検査
23	筋力低下のメカニズム	28	脳神経検査
24	関節可動域障害の病態メカニズム	29	まとめ
25	筋緊張検査	30	筆記試験

### 講義方法

講義、グループ学習、発表形式など

### 講義で使用する機器・教材

教科書・筆記用具持参のこと。その他必要に応じて事前に指示する。

### 履修上の注意事項

【前期】授業内容をきちんと記録すること。講義中の態度や提出物の期限を守ること。

【後期】実技演習は学校指定のユニフォームを着用すること。

レポート課題等の提出物は期限内に提出すること。

### 成績評価方法

授業態度、レポート、定期試験、出席状況を考慮して評価する。

### 参考書

P T ・ O T のための O S C E 臨床力が身につく実践テキスト

理学療法ハンドブック 第1巻 理学療法の基礎と評価

基礎運動学 第6版 補訂

触診機能解剖カラーアトラス 上 総論 身体の面と軸 骨/関節 靭帯

### 予習復習のアドバイス

課題を確実に調べてくること。グループでの活動もあるので協力して学習すること。

## 講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	通年		
学 科	理学療法科	学 年	2年		
科目名	基礎理学療法学実習Ⅱ	講義時間	時間割参照		
講師名	前期：和地辰紀、高田拓明	講義曜日	時間割参照	講義回数	30
	後期：全教員	総時間数	45	単位数	1
講義目標	<b>一般目標</b>				
	①理学療法士で実施される評価(検査・測定)の方法を習得する。				
	②各疾患の理学療法ガイドラインに基づいて、各評価についての知識を深める。				
	<b>到達目標</b>				
①検査測定の意味、評価技術の習得、実施。					
②各疾患の理学療法ガイドラインに基づいて各評価の意味や解釈などについてまとめ、発表する。					
回数	講義内容		回数	講義内容	
1	理学療法評価 総論		16	整形外科スペシャルテスト①	
2	理学療法評価 統合と解釈①		17	整形外科スペシャルテスト②	
3	理学療法評価 統合と解釈②		18	整形外科スペシャルテスト③	
4	理学療法評価 統合と解釈③		19	整形外科スペシャルテスト④	
5	理学療法評価 統合と解釈④		20	文献抄録 オリエンテーション	
6	片麻痺運動検査		21	抄録作成①	
7	片麻痺運動検査		22	抄録作成②	
8	バランス検査		23	文献抄録会①	
9	バランス検査		24	文献抄録会②	
10	バランス検査		25	文献抄録会③	
11	バランス検査		26	文献抄録会④	
12	姿勢反射		27	文献抄録会⑤	
13	姿勢反射		28	文献抄録会⑥	
14	協調性検査		29	文献抄録会⑦	
15	協調性検査		30	文献抄録会⑧	

**講義方法**

- ①実技中心に各評価方法を説明し、実際に検査・測定を実施します。
- ②担当教員に適宜相談しながら発表用レジュメを作成。発表をもって課題完成とする。

**講義で使用する機器・教材**

ホワイトボード、スライド、配付資料、各種検査器具等

**履修上の注意事項**

- ①実技試験にて評定を行うため、積極的に練習を行ってください。
- ②オリエンテーションにて説明した別紙に記載の内容に従って課題を進めてください。

**成績評価方法**

実技試験、文献発表を総合的に勘案し評価します。

実技は実技試験合格、文献は発表をもって課題到達として採点を行う。

**(実技試験50点、文献発表50点)**

**教科書**

適宜提示。

**予習復習のアドバイス**

- ①各評価の目的・意義を意識しながら練習を行うこと。  
実技練習は相手を変えながらどのような人にも実施できるようにすること。
- ②計画性をもって課題を遂行すること。  
担当教員への報・連・相を怠らないこと。

## 講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	通年		
学 科	理学療法科	学 年	3学年		
科目名	研究法	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	20
講師名	小宮山与一 三浦 信明	総時間数	30	単位数	2
講義目標	<b>一般目標</b>				
	・ 研究に必要な用語や知識を理解し、研究思考を身につける。				
	<b>到達目標</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究の必要性・重要性について説明できる。</li> <li>・ 研究に用いる用語を説明できる。</li> <li>・ 研究過程を説明できる。</li> <li>・ 理学療法関連の論文の内容を理解できる。</li> </ul>				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	EBPTとガイドライン	11	発表4
2	文献のまとめ（課題説明）	12	発表5
3	文献のまとめ（レジュメ作成）1	13	発表6
4	文献のまとめ（レジュメ作成）2	14	発表7
5	文献のまとめ（レジュメ作成）3	15	発表8
6	文献のまとめ（レジュメ作成）4	16	研究の進め方
7	文献のまとめ（レジュメ作成）5	17	研究の進め方
8	発表1	18	研究の進め方
9	発表2	19	研究の進め方
10	発表3	20	研究の進め方

### 講義方法

前半は講義形式、後半はワーク、発表形式になります。  
授業課題の詳細は別紙参照。

### 成績評価方法

発表、課題提出

### 参考書

・ 日本理学療法士協会 理学療法ガイドライン

### 予習復習のアドバイス

発表レジュメ作成のために、教員との報告、相談、連絡が必要になります。随時、積極的に主体的に取り組むよう心がけてください。

## 講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	通年		
学 科	理学療法科	学 年	1学年		
科目名	理学療法評価学総論	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	20
講師名	松田 千明	総時間数	30	単位数	2
講義目標	<b>一般目標</b>				
	理学療法検査および評価の定義や目的を理解し、検査項目それぞれの内容について概要を理解する。				
	<b>到達目標</b>				
	<input type="checkbox"/> 評価の大まかな流れをつかむことができる。 <input type="checkbox"/> 基本的な検査項目の目的を理解する。 <input type="checkbox"/> 正確な検査を実施することができる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	評価総論① 評価の意義、目的、過程 情報収集	11	形態測定（下肢長）
2	評価総論② 問診・実技	12	形態測定（周径）
3	評価総論③ 観察・実技	13	形態測定（四肢長・周径）
4	評価総論④ 統合と解釈、ICF	14	問診・バイタル・形態測定
5	バイタル測定 基本事項・施行の仕方	15	実技テスト
6	バイタル測定 実技	16	JCS.GCS HDS-R
7	ランドマーク 上肢	17	HDS-R MMSE
8	ランドマーク 下肢	18	歩行機能検査（10m歩行）
9	ランドマーク	19	歩行機能検査（6分間歩行）
10	形態測定（上肢長）	20	まとめ

**講義方法**

実技を中心に実施する。

**講義で使用する機器・教材**

教科書・筆記用具持参のこと。その他必要に応じて事前に指示する。

実技の際はケーシー着用で出席すること。必要に応じてメジャーやゴニオなどを使用。

**履修上の注意事項**

積極的に実技を行うこと。

私語を慎み、実技を行うこと。

検査測定の実習は、患者様への実施を想定し、学生同士であっても真摯に取り組むこと。

**成績評価方法**

レポート、定期試験、実技試験の結果を踏まえて評価する。

**教科書**

理学療法評価学 改定第5版 金原出版株式会社

**予習復習のアドバイス**

実技は繰り返しの中でしか身につかないため、自分から進んで練習を行うこと。



## 講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	通年		
学 科	理学療法科	学 年	1年		
科目名	骨格筋系測定法	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	30
講師名	小宮山与一、津谷宗達	総時間数	45	単位数	1
講義目標	<b>一般目標</b>				
	骨格筋系の代表的な測定法である、関節可動域測定及び徒手筋力検査法を習得する。				
	<b>到達目標</b>				
関節可動域測定及び徒手筋力検査法の意義及び目的を理解し、その手法について習得する。					

回数	講義内容	回数	講義内容
1	骨格筋系測定法総論	16	徒手筋力測定法（膝関節）
2	関節可動測定（股関節）	17	徒手筋力測定法（膝関節）
3	関節可動測定（股関節）	18	徒手筋力測定法（足関節）
4	関節可動測定（股関節）	19	徒手筋力測定法（足関節）
5	関節可動測定（膝関節）	20	徒手筋力測定法（足関節）
6	関節可動測定（足関節）	21	徒手筋力測定法（肩甲帯）
7	関節可動測定（肩関節）	22	徒手筋力測定法（肩甲帯）
8	関節可動測定（肘関節）	23	徒手筋力測定法（肩甲帯）
9	関節可動測定（前腕・手関節）	24	徒手筋力測定法（肩関節）
10	関節可動測定（体幹）	25	徒手筋力測定法（肩関節）
11	筋力測定法概論	26	徒手筋力測定法（肩関節）
12	徒手筋力測定法（股関節）	27	徒手筋力測定法（肘関節）
13	徒手筋力測定法（股関節）	28	徒手筋力測定法（肘・手関節）
14	徒手筋力測定法（股関節）	29	徒手筋力測定法（体幹）
15	徒手筋力測定法（股関節）	30	徒手筋力測定法（体幹）

**講義方法**

- ・実技中心ですが、座学も一部行います。

**履修上の注意事項**

- ・毎回実技があります。動きやすい服装（白衣でなくとも可）に着替えて出席してください。
- ・メモをとる準備をしてください。

**成績評価方法**

筆記試験（60％）及び実技試験（40％）

**教科書**

理学療法評価学(金原出版)、新・徒手筋力検査法（協同医書出版）

**参考書**

日本人体解剖学（南山堂）

PT・OTのための測定評価1 ROM測定

PT・OTのための測定評価2 MMT-頭部、頸部、上肢

PT・OTのための測定評価3 MMT-体幹、下肢

**予習復習のアドバイス**

- ・関節や筋をイメージしながら、声に出し、体を動かしながら、全身を使って練習してください。
- ・患者さんと接するように相手役への説明や声掛けを行ってください。
- ・講義終了後に復習をしてください。また翌週の講義前に教科書で予習をしてください。

## 講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	前期		
学 科	理学療法科	学 年	2 学年		
科目名	骨関節障害理学療法評価学	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	14/20
講師名	小宮山与一、三浦信明	総時間数	21/30	単位数	2
講義目標	<b>一般目標</b>				
	骨関節疾患の病態及び運動器障害の概要を知り、それらの理学療法評価について学ぶ。				
	<b>到達目標</b>				
骨関節疾患及び運動器障害について理解し、それらの理学療法評価を計画・実施することができる。					
回数	講義内容		回数	講義内容	
1	整形外科疾患の評価		11	人工股・膝関節置換術（評価）	
2	関節リウマチ（総論、評価）（非常勤講師）		12	捻挫と肉離れ（総論、評価）	
3	末梢神経損傷（総論、評価）（非常勤講師）		13	膝靭帯損傷/半月板損傷の理学療法(5)	
4	頸部疾患（総論、評価）（非常勤講師）		14	膝靭帯損傷/半月板損傷の理学療法(6)	
5	腰部疾患（総論）（非常勤講師）		15	骨折の理学療法評価（総論）	
6	腰部疾患（評価）（非常勤講師）		16	骨折の理学療法評価	
7	脊椎の手術（総論、評価）（非常勤講師）		17	骨折（高齢者の四大骨折の概要）	
8	変形性股・膝関節症（総論）		18	肩関節周囲炎（総論）	
9	変形性股・膝関節症（評価）		19	肩関節周囲炎（評価）	
10	人工股・膝関節置換術（総論）		20	肩の外傷（総論、評価）	
<b>講義方法</b> 講義及び実技					
<b>講義で使用する機器・教材</b> その都度連絡します。					
<b>履修上の注意事項</b> 授業の復習が必要になります。特に授業中で解決できない部分は自己学習を行い、さらに積極的に質問することを強く推奨します。 本科目は実技を多く講義に含みますので、実技ができる服装での参加が望ましい。					
<b>成績評価方法</b> 期末試験 100点					
<b>教科書</b> 理学療法ハンドブック第1～4巻 標準理学療法学 専門分野 骨関節理学療法学 標準整形外科学					
<b>予習復習のアドバイス</b> 教科書をよく読むこと。 実技練習は相手を変えて様々な人と行うこと。					

## 講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	前期		
学 科	理学療法科	学 年	2学年		
科目名	神経筋障害理学療法評価学	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	20
講師名	加藤栄美子 高田拓明	総時間数	30	単位数	2
講義目標	<b>一般目標</b>				
	神経筋疾患の病態を理解し理学療法との関わりを理解し適切な評価・治療が選択できる。				
	<b>到達目標</b>				
	①神経筋疾患の病態を理解できる。 ②神経筋疾患における理学療法内容が理解できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	グループワーク	11	グループワーク
2	グループワーク	12	グループワーク
3	グループワーク	13	グループワーク
4	発表	14	発表
5	パーキンソン病、関連疾患 疾患の概説、症状や治療の概略、PT評価について理解する。	15	末梢性ニューロパシー関連疾患 ギラン・バレー症候群等の末梢性ニューロパシーの病態、および障害像を理解
6	パーキンソン病 関連疾患 事例を通しての統合と解釈、PTプログラムの紹介、評価から治療の流れを理解する。	16	脊髄損傷 総論 疾患の概要や理学療法士の介入についての概略を知る
7	失調症 運動失調の症状と運動機能を理解する。各症状に対する理学療法評価を理解する。	17	脊髄損傷 グループワーク
8	失調症 事例を通して評価から治療までの流れを理解する。	18	損傷レベルに応じた症状、ADL、及び評価方法を学ぶ
9	多発性硬化症 多発性硬化症の分類や症状を知り、医学的管理のなされ方について理解する。	19	ミオパシー関連疾患 筋ジストロフィー、筋無力症を代表とするミオパシーの病態、および障害像を理解
10	多発性硬化症 各種症状に対する理学療法を理解する。評価から治療の流れを理解する。	20	運動ニューロン疾患 筋萎縮性側索硬化症を代表とする運動ニューロン疾患の病態、および障害像を理解

<p><b>講義方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教室での講義及びグループ学習、並びに実習室での実技</li> </ul>
<p><b>講義で使用する機器・教材</b></p> <p>その都度指示する。テキスト、ケーシーは毎回持参すること。</p>
<p><b>履修上の注意事項</b></p> <p>配布物の整理はその都度行うこと。実習時はケーシーへの着替えを行うこと。 小テストを授業最初に行うので定期テストや日々の振り返りに活用してください。</p>
<p><b>成績評価方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業態度、出席状況、グループワーク、筆記テスト、実技テストを加味して総合で評価する。</li> <li>・ グループワークでは、課題への取り組み状況、提出状況、提出物・発表スライドの完成度、発表内容、及び発表聴講時態度等を採点することとする。</li> </ul>
<p><b>教科書</b></p> <p>P T・OTビジュアルテキスト神経障害理学療法学 羊土社  ベッドサイドの神経の診かた 南山堂  標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 神経内科学 医学書院</p>
<p><b>参考書</b></p> <p>ハンドブック 1巻～4巻 羊土社</p>
<p><b>予習復習のアドバイス</b></p> <p>各疾患ごとに症状やリハビリテーションを暗記するのではなく、病態生理や発症機序を理解した上で、症状を関連させて考えると良い。例えば、脱髄性ニューロパチー（末梢神経障害）であるギランバレー症候群の典型は、髄鞘が障害されるため運動神経および有髄感覚神経（位置覚、振動覚）の神経伝導速度が低下する。位置覚障害のため失調性歩行を呈し、無髄神経線維の温痛覚などは比較的保たれる。上記から分かるように神経機能の生理学と各疾患の症状を結びつけることで疾患理解を深め、臨床に役立つ知識となる。</p>

## 講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	通年		
学 科	理学療法科	学 年	2学年		
科目名	脳血管障害理学療法評価学	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	24/30
講師名	津谷 宗達	総時間数	36/45	単位数	3
講義目標	<b>一般目標</b>				
	脳血管疾患などの中枢神経系疾患の病態及び脳血管障害の概要を知り、それらの理学療法評価について学ぶ。				
	<b>到達目標</b>				
	1) 脳血管疾患などの中枢神経疾患について理解し、それらの理学療法評価を理解することができる。 2) 一般的な脳卒中の理学療法評価を十分な指導の元に実践できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	総論(第1章)	16	脳卒中生活期(第2章③)
2	脳卒中急性期(第2章①)	17	1) 脳卒中生活期の捉え方
3	1) 脳卒中の分類や、主な病態・諸症状	18	2) 脳卒中生活期における一般的な理学療法評価の考え方
4	2) 脳卒中急性期における一般的な理学療法評価の考え方		
5	脳卒中急性期(第2章①)	19	脳卒中生活期(第2章③)
6	1) 症例の提示	20	1) 症例の提示
7	・脳卒中急性期における評価	21	・脳卒中生活期における評価
8	・統合と解釈		2) 症例検討（グループワーク）
9	2) 症例検討（グループワーク）	22	頭部外傷に対する理学療法評価（第2章④）
10	脳卒中回復期(第2章②)	23	脳腫瘍に対する理学療法評価(第2章⑤)
11	1)高次脳機能障害などの症状や障害の概要および理学療法評価	24	脳卒中に対する理学療法評価の実際① (非常勤講師)
12	2)脳卒中回復期における一般的な理学療法評価の考え方	25	脳卒中に対する理学療法評価の実際② (非常勤講師)
13	脳卒中回復期(第2章②)	26	脳卒中に対する理学療法評価の実際③ (非常勤講師)
14	1)症例の提示	27	脳卒中に対する理学療法評価の実際④ (非常勤講師)
15	・脳卒中回復期における評価	28	脳卒中に対する理学療法評価の実際⑤ (非常勤講師)
16	・統合と解釈	29	脳卒中に対する理学療法評価の実際⑥ (非常勤講師)
17	2)症例検討（グループワーク）	30	脳卒中に対する理学療法評価の実際⑦

<p><b>講義方法</b></p> <p>教科書・ホワイトボード・プロジェクタを使用し、人体模型・標本や実際の身体運動と照らし合わせながら講義・実技練習を行います。レポート課題も予定しています。</p>
<p><b>講義で使用する機器・教材</b></p> <p>教科書, ipad, ホワイトボード, プロジェクタ, 骨模型を予定 (適宜指示します)</p>
<p><b>履修上の注意事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習や臨床で多くみられる疾患です。さらに国家試験にも多く出題する分野で広範囲 ですので、授業でわからないことがあればその日のうちに解決するように心がけてください。</li> <li>・ 講義の大半が内部教員担当となりますので、講義日に変更される場合があります。</li> <li>・ いつでも実技を行えるような服装を準備をしておいてください。</li> </ul>
<p><b>成績評価方法</b></p> <p>学期末考査 (100点)</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>理学療法ハンドブック第1～4巻, 改訂第4版, 協同医書出版社 PT・OTビジュアルテキスト 神経障害理学療法学, 第一版, 羊土社</p>
<p><b>推薦図書</b></p> <p>病気が見える 脳・神経 vol.7, メディックメディア：病態や症状の理解を深める一助に</p>
<p><b>参考図書</b></p> <p>川平和美 編集 標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 医学書院 標準理学療法学・作業療法学 解剖学 医学書院 他</p>
<p><b>予習復習のアドバイス</b></p> <p>解剖学・生理学・運動学などの基礎科目の知識と結びつけながら学ぶことが重要です。わからないことは、まずは資料(文献が望ましい)を調べ解決する習慣をつけましょう。それでもわからない場合に教員に質問するようにしてみましょう。</p>

## 講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	通年		
学 科	理学療法科	学 年	2学年		
科目名	運動療法	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	20/40
講師名	三浦 信明	総時間数	30/60	単位数	2/4
講義目標	<b>一般目標</b>				
	運動療法技術全般に関する基礎的知識と技術を学ぶ。				
	<b>到達目標</b>				
	1.基本的な運動療法の目的を理解する。 2.基本的な運動療法の原理原則を理解する。 3.基本的な運動療法を実技を通して経験し、他者に実施する。				
回数	講義内容	回数	講義内容		
1	イントロダクション(運動療法の概要)	11	協調運動障害に対する運動療法		
2		12			
3	関節可動域練習 (ROMexを中心に)	13	バランス機能障害に対する運動療法(立位・座位中心に)		
4		14			
5	関節可動域練習 (関節モビライゼーション・ストレッチングを中心に)	15	歩行練習(荷重練習、杖歩行練習)①		
6		16			
7	筋力増強練習	17	歩行練習(荷重練習、杖歩行練習)②		
8		18			
9	全身持久力増強運動	19	高齢者の運動療法・ホームexの指導		
10		20			
<b>講義方法</b>					
スライド・プリントで運動療法の基礎的知識を講義し、その後、実技で実際に身体を動かしながら確認していく。					
<b>講義で使用する機器・教材</b>					
スクリーン、プロジェクター。その他は適宜指示します。					
<b>履修上の注意事項</b>					
実技を多く行います。実技のできる動きやすい服装で（ケーシーなど）授業に臨むこと。					
<b>成績評価方法</b>					
前期50点・後期50点ずつの総合点で評定を行う。 前期のテスト後、6割の点数に満たないものは後期の実技中心の授業の準備として後期授業開始前に前期授業分の確認テストを行う。					
<b>教科書</b>					
理学療法ハンドブック第1巻 理学療法の基礎と評価、第2巻 治療アプローチ					
<b>参考書</b>					
理学療法技術ガイド（文光堂）、シンプル理学療法学シリーズ運動療法学テキスト(改訂第2版) 理学療法学ゴールド・マスター・テキスト2 運動療法学 15レクチャーシリーズ理学療法テキスト運動療法学 標準理学療法学 専門分野 運動療法学 総論					
<b>予習復習のアドバイス</b>					
常に積極的に授業に参加してください。 実技の際には積極的にPT役・患者役を行うなどして、自分の体を可能な限り使い体験する。 適宜、解剖学・運動学・生理学などの予習復習の指示を出すので授業前までに確認してください。 実技に関しては短時間で習得できるものではない為、それぞれの時間を利用し練習を行うこと。					



## 講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	通年		
学 科	理学療法科	学 年	2学年		
科目名	運動療法学	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	20/40
講師名	理学療法科全教員	総時間数	30/60	単位数	2/4
講義目標	<b>一般目標</b>				
	理学療法士の問題解決能力を高めるために、関連する基礎知識の有無を確かめながら、系統的に各疾患について評価・診断・治療プログラムの立案といった重要な事項を習得する。				
	<b>到達目標</b>				
	①それぞれの疾患の特徴を理解することができる。 ②模擬患者の有する問題の仮説を考えることができる。 ③その仮説を検証するための検査項目を明確にすることができる。 ④検査測定の意味、評価結果の解釈が行える。 ⑤得られた情報を統合・解釈し、問題点の整理、目標設定、治療プログラムの立案を行う。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	PBL概要説明	11	PBL(個人)
2	PBL(個人)	12	PBL(個人)
3	PBL(個人)	13	PBL発表
4	PBL(個人)	14	PBL発表
5	PBL(個人)	15	PBL発表
6	PBL(個人)	16	PBL発表
7	PBL(個人)	17	PBL発表
8	PBL(個人)	18	PBL発表
9	PBL(個人)	19	動き、人を診る基本
10	PBL(個人)	20	動き、人を診る基本

**講義方法**

- ・ 課題はケースノート・自主学習ノート・症例報告レポート・発表用レジュメとする。
- ・ 実習の形式に従い、提示された症例について学習した内容を定期的に各担当教員に提出す
- ・ 主体的・能動的に学習を進め、担当教員に相談しながら課題をすすめる。
- ・ 課題作成後、発表を行う。

**講義で使用する機器・教材**

適宜指示します。

**履修上の注意事項**

- ・ 配布した注意事項に従い、担当教員に適宜フィードバックを受けながら進めること。
- ・ 実習を想定し、能動的に学習を進めること。

**PBLに対する心構え**

・ 経験の乏しいことに対し、まず「自己解決の努力」をし、それに「指導を受ける」ことが重要です。

**成績評価方法**

提示した評定用紙(実習の評定用紙を参考)に従い総合的に評定を行う。

**教科書**

特定しない。適宜必要な教科書を用いること。

**予習復習のアドバイス**

- ・ 配布の資料参照。

## 講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	通年		
学 科	理学療法科	学 年	2学年		
科目名	物理療法	講義時間帯	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	30
講師名	佐藤 美加	総時間数	45	単位数	1
講義目標	<b>一般目標</b>				
	各種物理療法の特徴及び生理学的効果等を理解する。				
	<b>到達目標</b>				
	①物理療法の種類を説明できる。 ②物理療法の適応、禁忌、実施方法について説明できる。 ③物理療法を実際に使用する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	物理療法概論	16	演習(6)
2	物理療法のための生理学	17	牽引療法概論
3	温熱療法概論	18	牽引療法各論
4	温熱療法概論	19	水治療法概論
5	温熱療法各論（ホットパック）	20	水治療法各論
6	温熱療法各論（パラフィン）	21	水治療法各論
7	温熱療法各論（極超短波）	22	電気刺激療法概論
8	温熱療法各論（超音波）	23	電気刺激療法各論
9	寒冷療法	24	電気刺激療法各論
10	光線療法（赤外線、レーザー）	25	演習(1)
11	演習(1)	26	演習(2)
12	演習(2)	27	演習(3)
13	演習(3)	28	演習(4)
14	演習(4)	29	演習(5)
15	演習(5)	30	演習(6)

<b>講義方法</b> 講義、実技
<b>講義で使用する機器・教材</b> その都度指定する。
<b>履修上の注意事項</b> 実習時には、当日の実習内容にふさわしい服装（Tシャツ、ハーフパンツなど）の用意をしてください。
<b>成績評価方法</b> 中間試験、期末試験など 16コマ終了後、その分の中間試験を行います（一定期間後）。それが6割に満たない場合、再試験を設定する予定です。期末試験は、17コマ以降分です。
<b>教科書</b> 理学療法ハンドブック 第2巻 治療アプローチ（協同医書出版社）
<b>予習復習のアドバイス</b> 教科書を何度も読むこと。

## 講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	通年		
学 科	理学療法科	学 年	2学年		
科目名	義肢装具学	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	30
講師名	加藤栄美子	総時間数	45	単位数	3
講義目標	<b>一般目標</b>				
	理学療法における義肢装具の必要性を理解する。義肢装具の構造を理解しながら対象疾患や障害に適した義肢装具を選択出来る様になる。必要な身体機能について再確認できる。				
	<b>到達目標</b>				
①装具や義肢の構造を理解する ②理学療法との関わりを疾患との関連を考慮しながら体得する。 ③実習を通し、他職種との関わりを確認できる。					
<b>回数</b>	<b>講義内容</b>		<b>回数</b>	<b>講義内容</b>	
1	義肢装具 総論 装具の目的、機能、分類、製作の流れ、チームアプローチについて理解する。		11	装具学 作成実習体験 短下肢装具の制作過程を理解する。ギプス包帯の扱い方を理解しギプスカットの体験をする。	
2	装具学 下肢① 下肢装具の構成部品とそのチェックアウト		12	装具学 作成実習体験 短下肢装具の制作過程を理解する。ギプス包帯の扱い方を理解しギプスカットの体験をする。	
3	装具学 下肢② 下肢装具の構成部品とそのチェックアウト		13	装具学 作成実習体験 短下肢装具の制作過程を理解する。ギプス包帯の扱い方を理解しギプスカットの体験をする。	
4	装具学 体幹① 対象疾患の理解、基本的な構造や種類について理解する		14	装具学 作成実習体験 短下肢装具の制作過程を理解する。ギプス包帯の扱い方を理解しギプスカットの体験をする。	
5	装具学 体幹② 対象疾患の理解、基本的な構造や種類について理解する		15	装具学 作成実習体験 短下肢装具の制作過程を理解する。ギプス包帯の扱い方を理解しギプスカットの体験をする。	
6	装具学 靴型装具 対象疾患の理解、構造や機能、補正の方法などを理解する。		16	装具学 作成実習体験 短下肢装具の制作過程を理解する。ギプス包帯の扱い方を理解しギプスカットの体験をする。	
7	装具学 C V A 関連① 意義目的、片麻痺の評価、適合判定や処方時期などを理解する。		17	装具学 整形疾患関連 整形外科疾患に用いられる装具の種類や機能を理解し症状と目的にあった装具の処方と装具療法について理解する。	
8	装具学 C V A 関連② 意義目的、片麻痺の評価、適合判定や処方時期などを理解する。		18	装具学 小児疾患関連 小児疾患特有の装具の種類や機能について理解する。	
9	装具学 神経筋疾患関連 神経筋疾患関連の病態や適応する装具の機能や使用法を理解する。		19	まとめ・筆記試験	
10	装具学 整形疾患関連 整形外科疾患に用いられる装具の種類や機能を理解し症状と目的にあった装具の処方と装具療法について理解する。		20	義肢学 基礎知識について 四肢切断の原因と切断高位、切断術・術後管理、義肢の基本構成を理解する。切断術後のリハビリテーションの流れを理解する。	

回数	講義内容	回数	講義内容
21	義肢学 基礎知識について 四肢切断の原因と切断高位、切断術・術後管理、義肢の基本構成を理解する。切断術後のリハビリテーションの流れを理解する。	26	義肢装具学・靴の制作について
22	義肢学 下肢切断・離断関連 下肢切断のPT評価と断端の評価を理解する。義足の構造と特徴、義足装着時のPT留意点を理解する。	27	義肢装具学・最近の話題
23	義肢学 下肢切断・離断関連 下肢切断のPT評価と断端の評価を理解する。義足の構造と特徴、義足装着時のPT留意点を理解する。	28	義肢学 上肢切断・離断関連 上肢切断のリハビリテーションの流れを理解する。義手装着前・装着練習を進めるうえで必要なPT評価、運動療法を理解する。
24	義肢学 下肢切断・離断関連 下肢切断のPT評価と断端の評価を理解する。義足の構造と特徴、義足装着時のPT留意点を理解する。	29	義肢学 上肢切断・離断関連 上肢切断のリハビリテーションの流れを理解する。義手装着前・装着練習を進めるうえで必要なPT評価、運動療法を理解する。
25	義肢装具学・靴の制作について	30	義肢学 上肢切断・離断関連 上肢切断のリハビリテーションの流れを理解する。義手装着前・装着練習を進めるうえで必要なPT評価、運動療法を理解する。

#### 講義方法

- ・ 教室での講義、実習室での実技実習

#### 講義で使用する機器・教材

- ・ P C、プロジェクター・ipadなどその都度指示。
- ・ テキストは必ず持参すること。

#### 履修上の注意事項

- ・ 必要な物品は忘れないこと。
- ・ 配布資料の整理をきちんと行うこと。

#### 成績評価方法

授業態度、提出物の期限厳守、出席状況、筆記テスト

#### 教科書

義肢・装具学（羊土社）

#### 参考書

ビジュアルレクチャー 補装具療法（医歯薬出版 中山孝、土屋辰夫編）

★義肢学 （医歯薬出版 澤村誠志編）

★装具学 （医歯薬出版 飛松好子編）

切断と義肢 （医歯薬出版 澤村誠志編） など

#### 予習復習のアドバイス

- ・ 小テストで大切な個所を確認します。期末試験前にも見直してください。
- ・ 授業中、テキストや資料に印をつけた部分は確実に覚えてください。

## 講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	後期		
学 科	理学療法科	学 年	1学年		
科目名	日常生活技術論	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	20
講師名	和地 辰紀	総時間数	30	単位数	2
講義目標	<b>一般目標</b>				
	日常生活活動（以下、ADL）の概念形成の関係を理解し、ADL評価・補装具・基本動作・身辺動作・住環境整備等の知識を習得し、ADL練習、指導の考え方を理解する。				
	<b>到達目標</b>				
	1.理学療法の過程とADLの関連について理解する。 2.ADL評価を行う目的と評価方法を理解する。 3.一般的な動作の介助や指導、基本的な補装具、住環境整備について理解する。 4.ADL練習、指導の原則や対象者の変化に対応したADL練習、指導を理解する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	ADL総論① ADLの概念・意義・範囲	11	起居・移動動作③ 起居動作（坐位，立ち上がり）
2	ADL総論② ICFの概念・意義・考え方	12	起居・移動動作④ 歩行動作
3	ADL評価① 目的・尺度・意義	13	起居・移動動作④ 歩行動作
4	ADL評価② BI・FIM・その他	14	起居・移動動作⑤ 床上移動動作
5	自助具 範囲・目的・種類と構造	15	起居・移動動作⑤ 床上移動動作
6	ADLの動作分析 位置づけ・動作観察，分析方法	16	身辺動作① 食事，整容動作
7	起居・移動動作① 総論	17	身辺動作② トイレ動作
8	起居・移動動作② 起居動作（寝返り，起き上がり）	18	身辺動作③ 入浴，更衣動作
9	起居・移動動作② 起居動作（寝返り，起き上がり）	19	支援機器と住環境
10	起居・移動動作③ 起居動作（坐位，立ち上がり）	20	ADL練習・指導の考え方

<b>講義方法</b>
対面講義形式，グループワーク，実技演習
<b>講義で使用する機器・教材</b>
適宜，スライド・配付資料等を用いる。 その他必要に応じて事前に指示する。
<b>履修上の注意事項</b>
講義内容をしっかり記録すること。 実技演習は学校指定のユニフォームを着用すること。
<b>成績評価方法</b>
学期末試験によって成績を評価する。
<b>教科書</b>
PT・OTビジュアルテキストADL第1版
<b>予習復習のアドバイス</b>
分からないことがあれば，まずは自分で調べてみる。それでも理解できなければ聞きに来ること。 過去の国家試験問題を復習で活用すること。



## 講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	通年		
学 科	理学療法科	学 年	2 学年		
科目名	骨関節障害理学療法治療学	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	20/30
講師名	小宮山与一、三浦信明	総時間数	30/45	単位数	3
講義目標	<b>一般目標</b>				
	運動器障害に対する基本的な手技について、その理論と実際の方法について学ぶ。また、骨関節疾患の代表的な理学療法について学ぶ。				
	<b>到達目標</b>				
	個々の運動器障害について説明でき、骨関節疾患の代表的な理学療法を実施できる。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	整形外科疾患の治療 (非常勤講師)	16	末梢神経損傷の理学療法 (非常勤講師)
2	骨折の理学療法①	17	頸部疾患の理学療法(1)(2) (非常勤講師)
3	骨折の理学療法②	18	腰部疾患の理学療法(1) (非常勤講師)
4	高齢者の四大骨折の理学療法①	19	腰部疾患の理学療法(2) (非常勤講師)
5	高齢者の四大骨折の理学療法②	20	脊椎手術の理学療法(1)(2) (非常勤講師)
6	高齢者の四大骨折の理学療法③	21	肩関節周囲炎の理学療法(1)
7	高齢者の四大骨折の理学療法④	22	肩関節周囲炎の理学療法(2)
8	変形性股・膝関節症の理学療法①	23	肩外傷の理学療法(1)
9	変形性股・膝関節症の理学療法②	24	肩外傷の理学療法(2)
10	人工股・膝関節置換術の理学療法①	25	膝靭帯損傷・半月板損傷の理学療法(1)
11	人工股・膝関節置換術の理学療法②	26	膝靭帯損傷・半月板損傷の理学療法(2)
12	関節リウマチの理学療法① (非常勤講師)	27	膝靭帯損傷・半月板損傷の理学療法(3)
13	関節リウマチの理学療法② (非常勤講師)	28	膝靭帯損傷・半月板損傷の理学療法(4)
14	関節リウマチの理学療法③ (非常勤講師)	29	捻挫と肉離れの理学療法(1)
15	関節リウマチの理学療法④ (非常勤講師)	30	捻挫と肉離れの理学療法(2)

<b>講義方法</b> 講義及び実技
<b>講義で使用する機器・教材</b> その都度連絡します。
<b>履修上の注意事項</b> 授業の復習が必要になります。特に授業中で解決できない部分は自己学習を行い、さらに積極的に質問することを強く推奨します。 本科目は実技を多く講義に含みますので、実技ができる服装での参加が望ましい。
<b>成績評価方法</b> 期末試験
<b>教科書</b> 理学療法ハンドブック第1～4巻 標準理学療法学 骨関節理学療法学 標準整形外科学
<b>予習復習のアドバイス</b> 教科書をよく読むこと。 実技練習は相手を変えて様々な人で行うこと。

## 講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	通年		
学 科	理学療法科	学 年	2学年		
科目名	神経筋障害理学療法治療学	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	20
講師名	高田拓明	総時間数	30	単位数	2
講義目標	<b>一般目標</b>				
	リハビリテーションの対象となる代表的な神経・筋疾患の理学療法について理解する。具体的には、パーキンソン病などの神経疾患、筋ジストロフィーなどの筋疾患、脊髄小脳変性症などの難病疾患の神経・筋疾患の病態、症状、リハビリテーション等について学習する。				
	<b>到達目標</b>				
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 神経機能の基礎について、生理学、解剖学の側面から理解できる。</li> <li>2. 対象となる疾患を理解する上で、遺伝子の欠損、タンパク質の変性、ウイルス感染等によって各種症状を呈するメカニズムが理解できる。</li> <li>3. 対象となる疾患の症状、医学的管理、および予後を理解し、時期や重症度に応じたりハビリテーション計画（評価項目、目標設定、治療プログラムの立案）を考えることができる。</li> <li>4. 対象となる疾患の関連知識として介護技術、ADL、福祉用具、社会資源等が理解できる。</li> </ol>					
<b>回数</b>	<b>講義内容</b>		<b>回数</b>	<b>講義内容</b>	
1	神経筋理学療法学概論		11	ニューロパチー ギランバレーのリハビリ	
2	脊髄疾患 1 脊髄損傷概論		12	中枢神経脱髄性疾患概論 多発性硬化症（MS）	
3	脊髄疾患 2 頸髄損傷のリハビリ		13	脱髄性疾患 MSのリハビリ	
4	脊髄疾患 3 腰髄損傷のリハビリ		14	小テスト2 ミオパチー，ニューロパチー，脱髄性疾患	
5	脊髄疾患 4 グループ発表		15	進行性変性疾患概論 ALS, SCD, パーキンソン病	
6	脊髄疾患 5 グループ発表		16	運動ニューロン変性疾患 筋萎縮性側索硬化症ALSのリハビリ	
7	小テスト1 脊髄損傷		17	小脳変性疾患 脊髄小脳変性症（SCD）のリハビリ	
8	ミオパチー概論 筋ジストロフィー，多発筋炎，重症筋無力症		18	小脳変性疾患2 脊髄小脳変性症（SCD）のリハビリ	
9	ミオパチー 筋ジストロフィーのリハビリ		19	黒質細胞変性疾患 パーキンソン病のリハビリ	
10	ニューロパチー概論 ギランバレー，CMT，DM，他ニューロパチー疾患		20	黒質細胞変性疾患2 パーキンソン病のリハビリ	

**講義方法**

基本的に実習室での講義と実技になります。  
グループワークをするので、毎回グループを作成してください。  
授業毎に復習のためのチェックテストを実施します。  
学んだ知識で国家試験問題を解けるか確認します。

**講義で使用する機器・教材**

教科書を毎回持参してください。  
講義資料は電子媒体で配布します。

**履修上の注意事項**

チェックテストを授業最初に行うので日々の振り返りに活用してください。

**成績評価方法**

期末試験の結果に授業態度、出席状況、グループワーク、課題、実技、小テストなどを加味し

**教科書**

(PTOTシリーズ) 神経理学療法学 医学書院

**参考書**

授業内で紹介します。希望があれば貸し出します。

**予習復習のアドバイス**

各疾患ごとに症状やリハビリテーションを暗記するのではなく、病態生理や発症機序を理解した上で、症状を関連させて考えると良い。例えば、脱髄性ニューロパチー（末梢神経障害）であるギランバレー症候群の典型は、髄鞘が障害されるため運動神経および有髄感覚神経（位置覚、振動覚）の神経伝導速度が低下する。位置覚障害のため失調性歩行を呈し、無髄神経線維の温痛覚などは比較的保たれる。上記から分かるように神経機能の生理学と各疾患の症状を結びつけることで疾患理解を深め、臨床に役立つ知識となる。

## 講義要項（シラバス）

年度	2019年度	時期	通年		
学科	理学療法科	学年	2 学年		
科目名	脳血管障害理学療法治療学	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	24/30
講師名	津谷 宗達	総時間数	36/45	単位数	3
講義目標	<b>一般目標</b>				
	脳血管障害に対する基本的な手技について、その理論と実際の方法について学ぶ。また、脳血管疾患の代表的な理学療法について学ぶ。				
	<b>到達目標</b>				
	一般的な脳血管障害の理学療法について簡単に説明でき、十分な助言の元に実施できる。				
回数	講義内容	回数	講義内容		
1	総論(第1章)	16	脳卒中生活期(第2章③)		
2	脳卒中急性期(第2章①)	17	1) 脳卒中生活期における一般的な理学療法の考え方		
3	1) 脳卒中の分類や、主な病態・諸症状	18			
4	2) 脳卒中急性期における一般的な理学療法の考え方	19	脳卒中生活期(第2章③)		
5	脳卒中急性期(第2章①)	20	1) 症例の提示 ・脳卒中生活期における理学療法のプログラムの実践		
6	1) 症例の提示	21			
7	・脳卒中急性期における理学療法のプログラムの実践	22	2) 症例検討（グループワーク）		
8	2) 症例検討（グループワーク）	23	頭部外傷に対する理学療法（第2章④）		
9	脳卒中回復期(第2章②)	24	脳腫瘍に対する理学療法(第2章⑤)		
10	1) 高次脳機能障害などの症状や障害の概要および理学療法	25	脳卒中に対する理学療法の実際① (非常勤講師)		
11	2) 脳卒中回復期における一般的な理学療法の考え方	26	脳卒中に対する理学療法の実際② (非常勤講師)		
12	脳卒中回復期(第2章②)	27	脳卒中に対する理学療法の実際③ (非常勤講師)		
13	1) 症例の提示	28	脳卒中に対する理学療法の実際④ (非常勤講師)		
14	・脳卒中回復期における理学療法のプログラムの実践	29	脳卒中に対する理学療法の実際⑤ (非常勤講師)		
15	2) 症例検討（グループワーク）	30	脳卒中に対する理学療法の実際⑥ (非常勤講師)		
			脳卒中に対する理学療法の実際⑦		

<p><b>講義方法</b></p> <p>教科書・ホワイトボード・プロジェクタを使用し、人体模型・標本や実際の身体運動と照らし合わせながら講義・実技練習を行います。レポート課題も予定しています。</p>
<p><b>講義で使用する機器・教材</b></p> <p>教科書，ipad，ホワイトボード，プロジェクタ，骨模型を予定（適宜指示します）</p>
<p><b>履修上の注意事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習や臨床で多くみられる疾患です。さらに国家試験にも多く出題する分野で広範囲 ですので、授業でわからないことがあればその日のうちに解決するように心がけてください。</li> <li>・ 講義の大半が内部教員担当となりますので、講義日に変更される場合があります。</li> <li>・ いつでも実技を行えるような服装を準備をしておいてください。</li> </ul>
<p><b>成績評価方法</b></p> <p>学期末考査（100点）</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>理学療法ハンドブック第1～4巻，改訂第4版，協同医書出版社 PT・OTビジュアルテキスト 神経障害理学療法学，第一版，羊土社</p>
<p><b>推薦図書</b></p> <p>病気が見える 脳・神経 vol.7. メディックメディア：病態や症状の理解を深める一助に</p>
<p><b>参考図書</b></p> <p>川平和美 編集 標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 医学書院 標準理学療法学・作業療法学 解剖学 医学書院 他</p>
<p><b>予習復習のアドバイス</b></p> <p>解剖学・生理学・運動学などの基礎科目の知識と結びつけながら学ぶことが重要です。わからないことは、まずは資料(文献が望ましい)を調べ解決する習慣をつけましょう。それでもわからない場合に教員に質問するようにしてみましょう。</p>

## 講義要項（シラバス）

<b>年 度</b>	2019年度	<b>時 期</b>	通年		
<b>学 科</b>	理学療法科	<b>学 年</b>	3学年		
<b>科目名</b>	地域理学療法学	<b>講義時間</b>	時間割参照		
		<b>講義曜日</b>	時間割参照	<b>講義回数</b>	20
<b>講師名</b>	和地 辰紀	<b>総時間数</b>	30	<b>単位数</b>	2
<b>講義目標</b>	<b>一般目標</b>				
	地域理学療法学では、病気や障害を抱えた人々が生活している場所（地域）で起きている生活問題の解決を図ることや治療技術だけではなくその人らしい生活づくりまでを含めた幅広い領域を理解する。				
	<b>到達目標</b>				
	①地域と理学療法との関係を理解する。 ②医療機関での理学療法と地域での理学療法の違いを理解する。 ③介護保険制度を理解する。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	地域リハビリテーションの概念①	11	在宅医療にかかわる知識
2	地域リハビリテーションの概念② ～地域とは～	12	健康増進への取り組み
3	地域理学療法概念	13	症例検討・演習課題①
4	地域理学療法の対象者	14	症例検討・演習課題②
5	介護保険サービス①	15	介護保険制度①
6	介護保険サービス②	16	介護保険制度②
7	介護保険における理学療法	17	地域で活躍している理学療法士の現状①
8	障害者自立支援法①	18	地域で活躍している理学療法士の現状②
9	障害者自立支援法②	19	地域で活躍している理学療法士の現状③
10	地域における社会資源	20	地域で活躍している理学療法士の現状④

<p><b>講義方法</b></p> <p>授業は板書中心です。  検討課題について個々人もしくはグループで解決していく。</p>
<p><b>講義で使用する機器・教材</b></p> <p>ホワイトボード，スライド，配付資料等</p>
<p><b>履修上の注意事項</b></p> <p>グループ内での検討課題に積極的に参加してください。</p>
<p><b>成績評価方法</b></p> <p>学期末考査、受講態度を総合的に勘案し評価します。</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>ビジュアルレクチャー 地域理学療法学</p>
<p><b>参考書</b></p> <p>理学療法学 ゴールド・マスター・テキスト 地域理学療法学  地域リハビリテーション原論</p>
<p><b>予習復習のアドバイス</b></p> <p>わからないことは、すぐに調べる、又は教員に聞くこと。  常に疑問を持ち臨むこと。</p>



## 講義要項（シラバス）

年 度	2019年度	時 期	通年		
学 科	理学療法科	学 年	3学年		
科目名	地域生活支援法	講義時間	時間割参照		
		講義曜日	時間割参照	講義回数	20
講師名	三浦 信明	総時間数	30	単位数	2
講義目標	<b>一般目標</b>				
	在宅生活者を地域で充実した生活を送れるようにするために、保健・医療・福祉に関する社会資源は何かあるのかを網羅した形で理解する。				
	<b>到達目標</b>				
	<input type="checkbox"/> 生活の場と身体状態を把握するための手段としてのICFを理解する。 <input type="checkbox"/> 障害がある人の生活を豊かにするためにはどのような社会資源があるのかを理解し覚える。 <input type="checkbox"/> どのような法制度があるのかを理解し覚える。				

回数	講義内容	回数	講義内容
1	オリエンテーション 地域リハビリテーション総論	11	住宅改造のプランニング
2	ICFのとらえ方とニーズの把握	12	住宅改造のプランニング
3	介護保険法について	13	生活場面での効果判定
4	要介護認定とケアマネジメント（1）	14	生活場面での効果判定
5	要介護認定とケアマネジメント（2）	15	生活空間の拡大
6	リハビリテーション実施計画書と理学療法	16	介護老人保健施設の役割
7	障害者自立支援法について	17	介護老人保健施設の役割
8	リハビリテーション施設基準について	18	医療保険制度の現状
9	生活圏のバリアフリー化とユニバーサルデザイン	19	医療保険制度の現状
10	生活圏のバリアフリー化とユニバーサルデザイン	20	回復期リハビリテーションの現状

**講義方法**

授業は板書およびスライドを用いた授業です。

グループワークも用いていきますので、授業にあたって自分の考えを伝えることも大切にして  
いってください。

**講義で使用する機器・教材**

ホワイトボード・スライド・配布資料等

**履修上の注意事項**

地域理学療法学で学んだことや、これまでに履修したことを復習してください。

**成績評価方法**

レポートをもって評価します。

**教科書**

ビジュアルレクチャー 地域理学療法学

**参考書**

理学療法学 ゴールドマスターテキスト 地域理学療法学

**予習復習のアドバイス**

単に教科書の記載ととらえるのではなく、実際に使うための知識となるように積極的に授業に  
参加すること。

地域理学療法学の知識だけではなく、解剖学や生理学、理学療法にかかわる様々な知識を必要  
とするため、常に復習を怠らないこと。